

天鏡閣本館

DATA

名称 天鏡閣本館
 所在地 福島県耶麻郡猪苗代町大字 翁沢
 字御殿山1048
 完成 明治41年 設計者 不明

福島県猪苗代湖畔に立つ天鏡閣。明治40年（1907年）、有栖川宮威仁親王が東北を旅行中、その景色の美しさに心惹かれ、別邸の建設を決めたといわれる。

翌明治41年に完成した別邸に、天鏡閣という名前を付けたのは、のちの大正天皇である当時皇太子の嘉仁親王。中国の詩人、李白の漢詩『明湖落天鏡（めいこはてんきょうをおとして）』に由来して命名したという。

この建物は、グレーを基調とした木造2階建て（一部3階建）、和洋折衷の明治洋風建築である。基礎部分には赤レンガが敷き詰められている。

天然スレート（天然の石を使った屋根材）葺きの屋根には、八角形の塔屋や円形・半円形のドーマーウィンドウ（屋根から垂直に突き出す形の窓）などが配されている。多くの煙突や上げ下げ窓とも相まって、非常に複雑な外観を持つのが特徴といえる。

建物の内部には、天鏡閣の名にふさわしく多くの鏡が飾られ、各部屋に華やかさと奥行きを与えている。

また、冬の寒さが厳しいこともあり、各部屋だけでなく、廊下や玄関ホールに設置されたものも合わせて、26基の暖炉が建物全体を暖める。暖炉は鋳物製。マントルピース（暖炉の周りの飾り枠）は大理石で、イギリス製のマジョリカタイ





2階御居間。シャンデリアを吊るす天井には、漆喰彫刻が施された優美な八角形の中心飾り



各部屋や廊下に設えられた暖炉

1階客間。暖炉、ロココ調の鏡と家具、シャンデリア等、天鏡閣の象徴たる部屋。椅子は鹿鳴館で使われていたものを複製したもの



1階球戯室。照明は、4個の電球で台上を均一に照らし、ゲーム中に球の影ができないようにしている

ルで美しく装飾されている。
建物の1階には「食堂」「客間」「球戯室（ビリヤード室）」など、来客をもてなすための部屋が並ぶ。
2階には「御居間（客室）」のほか、

「御寝室」「御座所（書斎）」や浴室など、私的な空間が並んでいる。
各部屋ともシャンデリアが吊るされ、その天井の基部は、美しい漆喰彫刻で飾られるなど、気品のある洗練された意匠で彩られている。
現在、福島県が所有する天鏡閣は、昭和54年（1979年）に本館、別館、表門が国の重要文化財に指定された。

